災害に対する日頃の備えは

髙松 幸雄議員

自らの命は自らで守る心が大切

市 長

問 本市は、海抜ゼロメートルの低地に位置し、木曽川、日光川といった大きな河川に囲まれている。一たび大地震や集中豪雨が直撃すれば、津波や浸水の被害が市域全体に及ぶことが想定され、日頃の警戒や備えが欠かせない地域である。私たち市民は、そうしたリスクにしっかりと向き合い、いかに避難するか、いかに備えるかを常に考え、平時のうちに生活物資を備蓄し、避難行動を訓練していく必要がある。

現在、市からは洪水ハザードマップと地震ハザードマップが各家庭に配付されている。昨今の自然災害の頻発を受け、洪水、津波それぞれの基準が見直され、洪水ハザードマップでは、日光川の浸水想定、そして津波発生時の基準水位が改定されたが、市のハザードマップを見直す予定はあるのか。

答 国・県の想定や考え方が変わったので、これに合わせて改定し、市民に知らせる必要がある。このため、最新のデータ及び基準に沿った新たなハザードマップの作成費用を令和2年度当初予算に計上している。

▲建物の1階窓とほぼ同じ位置にある
海抜0メートル表示看板(近鉄富吉駅前)

問 新しいハザードマップは、どのような内容か。

答 これまで洪水と地震で別々に配付していたハザードマップを1冊にまとめ、それに各種防災情報を加えた防災ハンドブックを作成する。

問 災害に対する日頃の備えについて、市長の考えは。

答 災害が発生したとき、いかに身を守るか、いかに避難生活をしていくかは、一人ひとりが考え、行動し、備えておかなければならないことだと考える。

今回、新たに策定するハザードマップは、あくまでも一定の条件を設定したものである。そればかりを過信せず、あらゆる状況をイメージして、避難経路の確認、非常持ち出しバッグの準備、家庭内での備蓄など、日常の中で行ってもらいたい。自らの命は自らで守るという自助の心を持ってもらえるようお願いをしたい。